

日本のGDPの推移（主要国の名目GDP、国別シェア）

産業構造の
変化

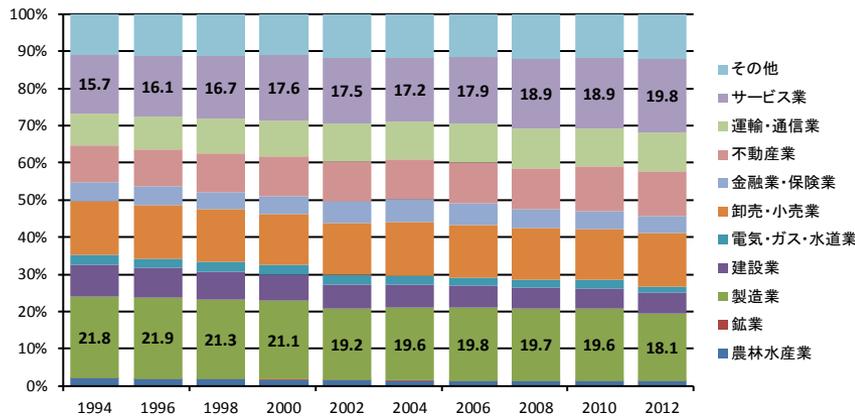
●過去20年の産業別GDPと就業者数構成の変化

製造業： GDP割合は約4%減少 就業者割合は約6%減少（一人当たり付加価値増）

サービス業： GDP割合は約4%増加 就業者割合は約8%増加（一人当たり付加価値減）

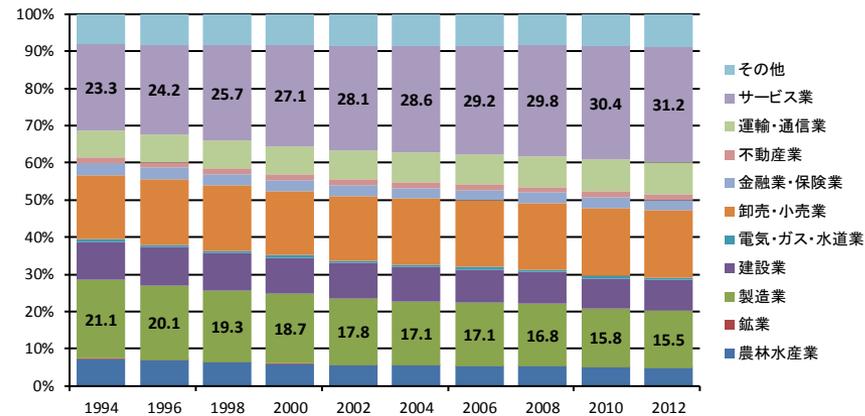
●日本の名目GDPは2010年に中国に抜かれて3位に後退、GDPは微増

●日本のGDPの国別割合は、1994年→2012年で約10%減少（17.8%→8.2%）



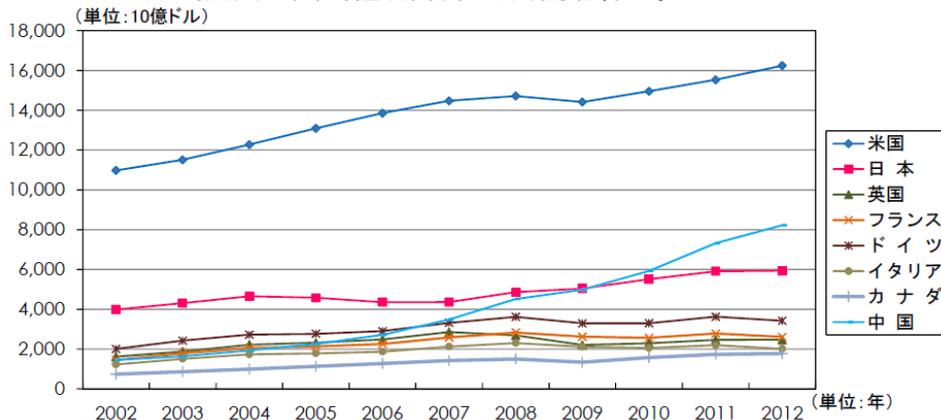
名目GDPに占める産業別割合

(出典：国民経済計算より内閣府作成)



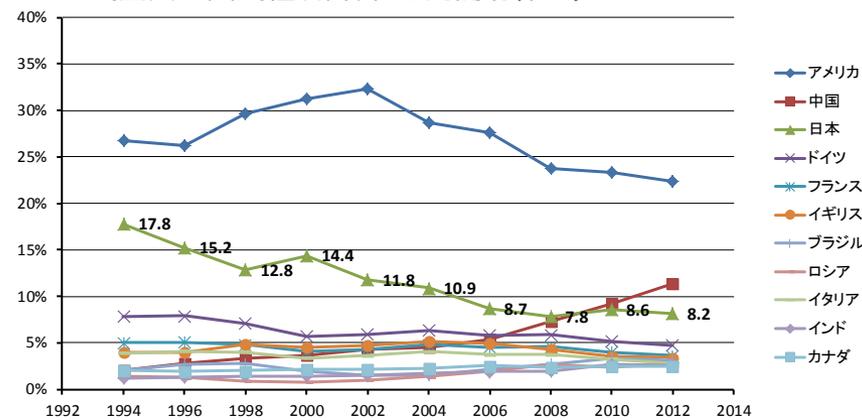
就業者数の産業別割合

(出典：国民経済計算より内閣府作成)



主要国の名目GDPの推移

(出典：文部科学省 総合政策特別委員会（第1回）資料)



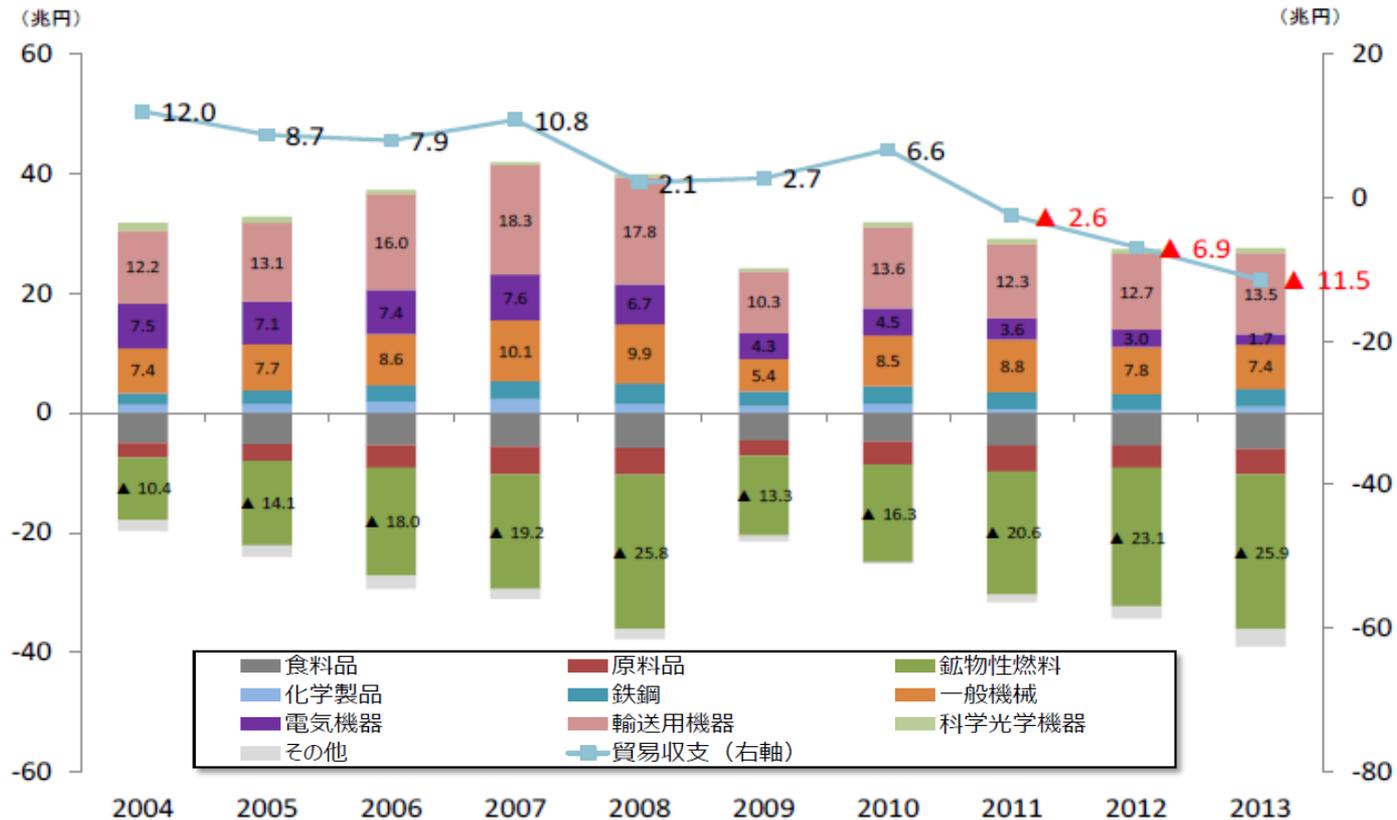
主要国の名目GDPの国別割合

(出典：国民経済計算より内閣府作成)

我が国の貿易収支の構造と変遷

- ▶ 我が国の貿易収支は、リーマンショック、東日本大震災を経て大幅に悪化。震災以降は貿易赤字が拡大し、3年連続赤字に。
- ▶ 主要輸出品目の輸送用機器、電気機器で貿易黒字縮小。テレビと携帯電話で約1.7兆円の輸入超過。
- ▶ 輸入品目では、資源・エネルギーの赤字幅が拡大していることに加え、医薬品・医療機器等の赤字が拡大傾向（2013年は約2兆円の輸入超過）。
- ▶ 原発の停止分を火力発電が代替することにより、2013年度の発電用の輸入燃料費は震災前と比べて約3.6兆円増加する見通し。国民一人あたりにすると年間約3万円が海外に流出している状況。

主要品目の貿易収支（輸出額－輸入額）の推移



(出所)財務省「貿易統計」

「変化のスピード」の加速

- 近年、製品・サービスの市場における普及スピードは加速。IT化とグローバル化の進展により、このスピード感は早まりこそすれ、遅くなるとは考えられない状況。この結果、先行者のみが大きな成功を収める構図に。
- 同時に、先行する製品・サービスを陳腐化させる「ゲームチェンジャー」が出てくれば、市場の様相は一変。
- 加速する変化に対応して、スピード感ある事業化を実現するためには、必要な経営資源（知財、技術、人材等）を、自前主義にこだわらず外部から調達すること（オープン・イノベーション）が重要に。

米国市場における製品の普及スピードの加速

米国市場において製品普及率が
10%から 90%に拡大するために要した年数

固定電話		73年 (1903～1976年)
携帯電話		14年 (1993年～2007年)
スマートフォン		8年 (2007年～2015年(予測))
PC		30年超 (1985年～現在 77%) ※普及率の伸びが近年鈍化
タブレット端末		?? (2011年～現在 40%)
ウェアラブル端末		??

(出所) Horace Dediu : asymco.com

2025年における「破壊的技術」の予測

頭脳労働の機械化 	知的ソフトウェアシステムが、体系化されていないコマンドや微妙な判断を行うことが可能に 2025年における経済的なインパクト(予測) →年間3.7兆ドル～10.8兆ドル
Internet of things 	低価格センサー、データ収集、モニタリング、判断、プロセス最適化のための機器がインターネットにつながる世界に 2025年における経済的なインパクト(予測) →年間2.7兆ドル～6.2兆ドル
アドバンスドロボティクス 	感覚、機動性、知性が強化されたロボットによる作業の機械化・自動化、人間活動の可能性の増大 2025年における経済的なインパクト(予測) →年間1.7兆ドル～4.5兆ドル
次世代ゲノム学 	急速かつ低価格なDNAシーケンシング、先進的なビッグデータ解析、合成生物学によりDNAを“書き出す”ことが現実 2025年における経済的なインパクト(予測) →年間0.7兆ドル～1.6兆ドル
エネルギー貯蔵 	バッテリーを含め、エネルギーを貯蔵し、取り出すことを可能とする機器やシステムの可能性の拡大 2025年における経済的なインパクト(予測) →年間0.1兆ドル～0.6兆ドル

(出所) McKinsey Global Institute 「Disruptive technologies : Advances that will transform life , business, and the global economy」